

新潟青陵学会誌創刊号巻頭言

新潟青陵学会会長
新潟青陵大学学長

清水 不二雄

昨年までの新潟青陵大学紀要に別れを告げ、ここに面目を一新して新潟青陵学会誌創刊号が刊行される運びとなったことは無上の喜びとするところであり、短縮準備期間をものともせず、その実現にこぎつけていただいた関係各位のご尽力に心から感謝したい。

新潟青陵学会は昨年（2008年）4月に新たに設立された。本学は開学当初より看護・福祉・心理の互いの連携の重要性を謳い、“総合的な対応力を身につけた専門家の養成”をその基本理念として掲げてきた。また大学はこのような地域にしっかりと貢献できる専門家を送り出すとともに、質の高い学術研究成果を社会に還元するという重要な責務も負っている。ところで本学が関与する領域が元来、複合的な構造を持つことから、その学術研究には従来の個別専門領域を超えた新しい学際的な視野に立った研究教育体制の再構築が必要であり、実際、チーム医療現場でもそのような観点が重視されるに至っていると聞く。その対象となるいわば“新潟青陵学”を深めていこうというのが本学会の目指すところであり、それが本学の特徴的な教育研究内容に結実し、地域に受け入れられ、地域との連携を深め、現場への貢献度を高めていくものと信じている。昨年11月の第1回学術集会では両学科に共通した観点からの主要テーマが選定され、学生も含めた活発な発表があった。その中から魅力的な共同研究テーマが自然発生的に醸成されてくるものと期待している。その暁には外部資金獲得の可能性が更に高まっていくものと確信している。更には同様の問題意識を共有する卒業生も含めた現場の方々の生々しいメッセージ交換の場、あるいは学びなおしの場として本学会が位置づけられ、“新潟青陵学”の輪が広く深く地域に根付き広がっていくものと期待している。

学会の大きな柱となるのは上述の学術集会に加えてその研究報告媒体としての学会誌であることに異論はなかろう。ここに盛られた幅広い視野を有する研究内容から何か新しく有益な観点、ヒントを嗅ぎ取っていただければ望外の幸せであり、それが開学当初に先人が意図された“新しい科学の確立”に繋がるものだと考えている。この先輩達の意気軒昂たる熱い想いはたとえ媒体が変更されようとも本学の存続する限り引き継がれ絶やしてはならないものである。今こそ地域との連携のもとに私達の目指すものが具体化される時期に来ている。優れた先人の高く掲げられた松明の火を決して消してはならない。その想いを新たにしながらここに新潟青陵学会誌創刊号を上梓する。

ご高覧の上、諸賢より忌憚のないご批判を賜りたい。